



LIFE 生活について

フィンランドはとても寒いです。だんだん日が出ている時間が減っていき暗い冬の訪れを感じています。ただ、渡航してからこれまでは特別気温が低いこともなく、紅葉のシーズンなため景色も綺麗でとても快適に過ごすことができました。オーロラも薄らですが見ることができました。(上の写真は友達が新しいiPhoneで撮影したものです。自分の携帯だとこんなに鮮明に映りませんでした。)

留学先のラップランド大学はサンタクロースビレッジで有名なロヴァニエミという小さな街にあります。自然が豊かで、到着して一番びっくりしたことは木の多さでした。木が生えすぎています。住居は大学から5分の場所で、特に雪が積もるこれからの季節の通学にとっても便利なようです。その分街の中心地までは遠く、自転車で15分ほどかかります。来て最初のうちは生活必需品を揃えるために中心地まで行く必要がありましたが、現在は特に用事がなければ住居の近くのsaleという小さなスーパーで買い物を済ませてます。外食は高く、15-20ユーロほどするので食事は基本自炊か大学のカフェ(ビュッフェスタイルで2.7ユーロ)に行きます。ロボットのように毎日スパゲッティを作り続けていて、早くも日本のご飯が恋しいです。

こちらに来てから一番ハマっているのがセカンドハンドショップ(日本でいうリサイクルショップ?)に行くことです。フィンランドの人の多くがセカンドハンドショップを利用し、物を売り買いしているようです。世の中的にも追い風になっているようで、服に限らず、食器や家具などが安く手に入るととても楽しい場所です。温かいジャケットが15ユーロ前後、ニットが5ユーロで売られていて、安さに負けて購入してしまい手持ちの服がどんどん増えていきます。

日本だと古着といえば若い人のイメージでしたが、こちらではたくさんの主婦の方が利用しているようで自分の服や子供の服を売り買いしています。物を長く使うという観点で、とても良い文化が根付いているように感じました。



最後にサウナ、ハイキング、バーベキューの3つはこちらでの生活で欠かすことができません。サウナは自分が住むアパートメントの中にも入っていて、予約すると無料で利用できます。日本のサウナと違い、焼き石に水をかけてスチームで室内を温めます。湿気がある分、たくさん汗が出ている気がして、毎回とても健康な体になったように感じます。特にこれからの季節は外で体を動かすことが難しくなるので、汗を流すためにもたくさん利用しそうです。水分補給で飲み物を持っていくのが普通で、こちらの方は休憩の時にビールを飲むそうです。僕はすぐのぼせてしまうのでビールは飲みません。ハイキングは本当にみんな大好きで、月に2,3回の頻度で行きます。今の時期は、ベリー狩りを楽しむことができ、野生のブルーベリーやリンゴンベリーという赤いベリーを山で拾って家まで持って帰ります。ベリー狩り専用の道具まであり、フィンランド人にとってとても身近なフルーツなのだなあと感じました。また、ハイキングに付き物なのがバーベキューです。山には必ずファイヤースペースがあって、近くにある木を燃やして火を作りソーセージやマシュマロを焼いて食べます。特に辺りが暗くなった夜に自然に囲まれながらみんなで火を囲む時間はとても素敵です。チルってこういうことを指すのだなあと思いました。そして、帰宅した時に気づいて毎回困るのが煙の匂いが服に移ることです。日本だったら消臭スプレーをかければ済むことですが、いくら探してもこちらでは見つかりません。僕のジャケットはいつも微かにバーベキューの匂いを纏っています。

たくさんのことを盛りだくさんに書いてしまいましたが、総じてフィンランドでの生活は快適で楽しいです。これからは、厳しい冬に向けて準備を進めようと思います。





STUDY 勉学について

渡航がセメスターの開始時期から大きく遅れましたが、幸い自分の履修しようとしていた授業は始まりが遅かったため全て最初の授業に間に合うことができました。

9月、10月は Finnish Design、Arctic Inspiration、Interaction Design、Independent Studies Photography の4つの授業を受講していました。4つのコースの内2つ Interaction Design、Independent Studies Photography はまだ始まったばかりなので、今回は Finnish Design、Arctic Inspiration をご紹介しようと思います。

Finnish Design は名前の通りフィンランドのデザインについて幅広く勉強するものです。クラスの中で Industrial、Audio Visual、Graphic、Textile、Fashion の5つのグループに分かれ、それぞれがフィンランドのデザインから得たインスピレーションをもとに最終制作物を提案します。自分は Fashion のグループになりました。毎週の授業では、Industrial、Audio Visual、Graphic、Textile、Fashion の5つの分野を週ごとにリサーチしプレゼン。その後それぞれの専門の先生が講評、レクチャーをします。

毎週、5つのグループが調査した内容とそのフィードバックを聞くことができるためフィンランドデザインを深く知れる良い機会になっています。フィンランドのデザインには特徴となる言葉がいくつかありますが、その中でも特に素晴らしいと感じたのが Timeless というキーワードです。時代にとらわれず、いつまでも使い続けられるデザイン。フィンランドの代表的なテキスタイルブランドのマリメッコの unikko 柄はまさにフィンランドの Timeless デザインを象徴しているものの一つです。

たくさんのものが大量に作られ、捨てられる世界で、とても大切な考え方だと感じました。また、フィンランドのデザインは日本と似た点がたくさんあるように感じました。木を使った製品や建物が多かったり、シンプルで機能的なデザインには共通点を感じます。特に驚いたのが、自分がよくプレイしていたゲームがフィンランドの会社のものだったことです。モバイルゲームで有名な会社がヘルシンキにたくさんあり、フィンランドはゲームでとても有名な国だそうです。全然イメージになかったのですが、確かによく考えてみれば、長く寒い冬の期間に家ですることといえばゲームです。日本もゲームで有名な国ですから、さらに親近感が持てました。

現在は最終提案に向けて準備をしている状況です。最終提案の内容については来月報告させていただきます。

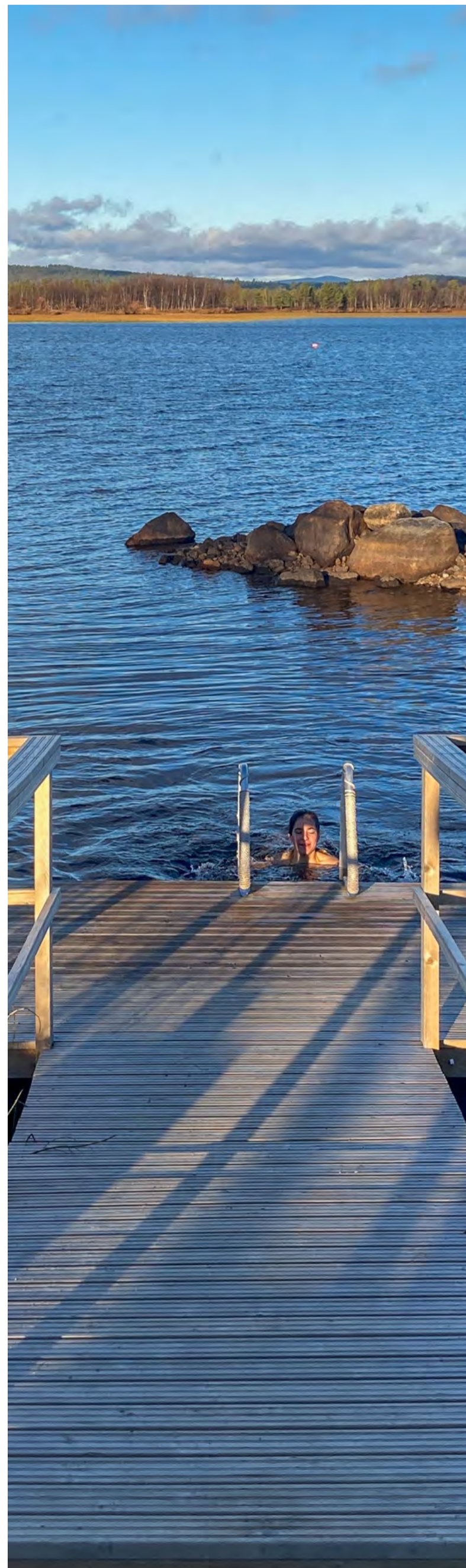
Arctic Inspiration はとても楽しいコースでした。交換留学生 10 人で大学から北にある Inari という町に 4 日間滞在し、フィンランドの自然や先住民の Sami 族について学ぶ短期の授業です。Inari にある山、Sami 族の伝統工芸を学ぶ訓練学校や Sami 族の歴史を学ぶ博物館へ行き、得た情報を学生間で議論します。

Sami 族は遊牧民族で、彼らの衣服、住居、道具は全て現地の自然素材が使われています。こうした暮らしは、サステイナブルな取り組みとして見直すべき点であり、博物館には Sami 族が住んでいた木造の家を調査し、それを元にエコフレンドリーな住居を作るプロジェクトの展示がありました。日本にもたくさんの木造建築がありますし、そこにたくさんの知恵が詰まっているのだと思います。これからの持続可能な社会に向けて日本の文化、歴史はより重要な意味を持つのだと感じました。

また、別の日には山にハイキングに行き、頂上でバーベキューをしました。(フィンランドでハイキングといったらバーベキューです。必ずします。) 渡航してから何度かハイキングに行きましたが、Inari の山はロバニエミと比べてもさらに野生で、言葉では表せない美しさでした。頂上にぽつんとある小屋もとても素敵で、みんなで中に入って火を作りコーヒーを飲みながらソーセージを焼きました。日本の高尾山では味わえないような大自然を肌で感じました。

授業を通じてフィンランドの自然との向き合い方に触れ、素直な感想として自然って良いなと感じました。また、サステイナブルな視点でこの環境で暮らすフィンランド人生活や慣習に改めて興味が湧きました。

余談ですが、フィンランドの文化で決して忘れてはいけないものの一つがサウナです。滞在先のコテージにはサウナがあり、近くの湖に飛び込むことができました！ 22 歳でもまだまだ青春できました。



LIFE 生活について

ほぼ毎日気温が氷点下を下回り、現在は-10℃ぐらいでとても寒いです。また、2時や3時くらいには太陽が沈むので夜がとても長く感じます。ですが、家にずっといてもしょうがないのでなるべく外に出るように過ごしました。

今回は、フィンランド人の友達のサマーコテージ、ロバニエミに住む日本好きなフィンランド人の家にお呼ばれした時の様子を紹介しようと思います。

まず、ラップランドに住む、別のフィンランド人の家庭にお呼ばれした時の様子です。この時は、フィンランドの伝統的な料理をご馳走していただきました。このお家にも暖炉があってパンは自家製でした。メインの料理はトナカイの肉とじゃがいものプレートで、臭みを、少し気にしていましたがほとんど気にならずとても美味しかったです。食後はコーヒーを飲みます。学校にいるフィンランド人



もそうですが、本当にコーヒーを沢山飲みます。世界で一番コーヒーを飲む国だそうです。また、フィンランド人の多くが日本人に対して友好的であると感じることが多いです。今回お邪魔したご家族も、かなりの日本愛好家で、インテリアの随所に日本文化を感じることができました。

特に、日本の工芸品は人気があるようです。

こけしや、コマ、ハンコなど、どこで購入したのかと何うと、快く紹介をしてくれました。日本に来た事もあるそうで、その際の思い出を話してくれたり、反対にどうしてフィンランドに来たのか、フィンランドについてどう思っているのかなど、興味深そうに質問をしてくれます。また将来、日本で彼らに会えると思うので、その際にはさらに日本文化を伝えることができ、より好きになってもらえるように、自分自身も自国の文化に興味を湧きました。

次に、フィンランド人の友達のサマーコテージに行った時の様子です。フィンランドでは、多くの家庭が自分の家とは別にサマーコテージを持っていて、夏に行って休暇を楽しむようです。電気はありましたが、水道はなかったりして、1週間くらい社会と離れて休みを取ることが国民の幸福度に繋がっているそうです。コテージは湖に面した場所にあり、もちろんサウナもありました。今の時期は湖が凍っていたため、氷を割ってサウナから出たあとに入るための穴を作る必要があります。湖に入るのはとても寒かったですが、冬に温泉に入ると同じ感覚で最高でした。

また、今回は天気の関係で見ることができませんでした。近くに街がなく灯りが少ない場所なので、運が良ければとても綺麗なオーロラが見えるようです。

コテージで一泊した次の日には、フィンランド人の友達のおばさんのお母さんのお家に行きました。80歳のおばあちゃんですが、とてもパワフルで可愛かったです。お家には暖炉があり、自家製のパンをいただきました。暖炉、サウナ、バーベキューなど、寒い地域に住むからこそフィンランド人は火と密接な関わりをしているなぁと改めて感じました。火をうまく扱うからか、みんなとても暖かい人たちです。

この旅行を通して、フィンランド人の休暇の過ごし方の一部を体験することができました。のんびりと自然を楽しむ生活に憧れるようになってきました。



STUDY 勉学について

履修している授業が終わりに近づき、忙しい日々を過ごしています。今回は、10月分の報告書で紹介した Arctic inspiration、Finnish design と展示会を開催した photo course について書いていきたいと思います。まず Arctic inspiration です。前回報告した通り、授業自体は終わっていたのですが、その流れで遊牧民族（サミ族）の伝統工芸をつくるワークショップを開催していただき、それに参加してきました。ワークショップでは、サミ族伝統のナイフを制作しました。ナイフの素材はトナカイの足の骨を使います。今回は機械を使い形作っていきましたが、昔はトナカイの毛皮を使いヤスリがけを行っていたようです。トナカイの数を管理しながら伝統工芸品の制作をしているようで、とても貴重な体験をさせていただきました。また、体験を通じて伝統工芸に携わる方々と会話することで理解をより深めることができました。



次に Finnish design です。5つのチームがある中で、僕たちのチームはテキスタイルデザインを担当。ラップランドにある素材で植物染をしたサスティナブルスカーフの提案をしました。特に、プロトタイプを作る部分に力を入れて、街に生えているベリーや木を採取し布を染めたり、パターンを描いたりしました。自分の経験したことが無かったファッションデザインに触れることができ、苦労を感じながらもとても楽しい授業でした。他のチームの最終提案も面白く、太陽を感じられるライト、観光を楽しむためのグラフィティを使った新しいインタラクションなど、幅の広い発表でした。各チームがロヴァニエミに住み経験したからこそその提案になっていたことが、発表にリアル感をプラスしていました。



最後に photo course です。この授業は完全個人制作で先生と毎週ミーティングをしながら進めていきました。撮影から展示までを考える必要があり、作品を制作しそれをどう見せるかと言うところまで学ぶことができました。僕は複数の似た写真、同じアングルの写真を透過し、重ねることで一つの写真を作るという決まり事で制作を進めました。最終的には、二つの作品を展示しました。1つは、自分のアパートの窓の外の景色、内側の景色を毎朝撮影し重ねました。これは、日々の移り変わりの中で、変わらないものを見つけたいという思いから制作しました。

2つ目は、自分の家から街の中心に向かうまでに等間隔に植えられている木を一本ずつ撮影し、重ねたものです。作品の構成要素である木の写真でスライドショーをつくり、プリントした写真の上に投影するという演出の工夫をしました。

毎週、授業が面白く楽しみに過ごしていました。展示まできっちりとやり切ることができとても良い経験になりました。





LIFE 生活について

とても寒く、暗いフィンランドの冬が終わりに近づき、春の訪れを感じます。12月の終わりから1月の初めは日照時間が3、4時間で気温も-20度だったのが、今では日照時間が8時間、気温もまだまだ寒いですが0度付近と大きく変化しました。今回は、冬の間どんな風に生活をするのかを報告しようと思います。

まず、なんと言ってもクリスマスは欠かせないイベントです。日本と違い、ヨーロッパ圏では恋人と過ごすというよりは家族団欒の時間です。休みの期間も長く、日本の正月休みのような感覚に近いような気がします。また、注意しなくてはならないのが、日本のお正月同様、クリスマス当日にはほとんどのお店がクローズしています。街が賑わい、クリスマスマーケットなどがオープンしているのは23日までで、24、25日は街が静まり返っています。

ほとんどのフィンランド人学生が自分の家に帰ってしまうのですが、運良くロバニエミに実家があるフィンランド人の友達の家にお邪魔させていただきました。クリスマスの伝統のご飯を食べたり、ジンジャークッキーをつくったり、現地での過ごし方を体験することができました。とても興味深かったのが、クリスマスに家族全員でサウナに入る、クリスマスサウナという文化です。身を清めるために行うようで、クリスマスが神聖なイベントであることを知ると同時に、サウナがフィンランド人の生活に深く根づいたものだと、改めて感じました。

次に、ウィンタースポーツです。特にロヴァニエミは自然が身近にあるためウィンタースポーツを気軽に楽しめるように感じます。自分のアパートの近くに、大きな屋外スケートリンクがあり最近ではアイススケートを楽しんでいます。学校にスケートシューズを持ってきて授業終わりにスケートをしに行ったりします。リンクでは、ほとんど毎日アイスホッケーをしている人たちがいます。(ストリートバスケットのような感じです。)僕も、アイスホッケーに挑戦中で、セカンドハンドショップでスティックを買ってフィンランド人の友達と一緒に練習しています。鈍臭くて沢山転ぶので練習後は体中が痛くなりますが、冬の間はなかなか体を動かす機会がないのでとても楽しんでいます。



サウナも継続して楽しんでいます。今の時期は、川が凍っているのを穴を開けてそこに入ることで、サウナで温まった体を冷やします。ただ、これは特別なことで毎回する訳ではないようです。友達同士で家で集まった時にやるイベントのようなものらしいです。これは、フィンランド人の友達のシェアハウスに呼ばれた時のサウナの様子なのです。この時に、一番びっくりしたのが、友達がシェアハウスと一緒に住んでいるのが同じ学校の先生だったことです。学校にいる先生はとてもフレンドリーで、友達のような感覚は僕も持っていましたが、ここまでフラットな関係だったことに驚きです。

最後に、冬の時期はオーロラが本当に綺麗に見えました。今まで見たオーロラよりずっと鮮明で、様々な色が表れていました。写真のイメージとは違いオーロラは沢山動いていて、実際に見なければわからない感動がありました。残りわずかな時間の中で、オーロラを見ることが出来るチャンスを逃さないように生活しています。





STUDY 勉学について

前期の授業が終わり、後期の授業が始まりました。後期はプロダクトデザインの授業2つと、フィンランドの文化を学ぶ授業、交換留学生同士で様々なトピックに対してディスカッションする授業を履修しています。

一つ目のプロダクトの授業は furniture design modulu という、フィンランドの家具デザインを再解釈して新しい家具をデザインする授業です。最終的には、1/6 スケールのモックアップを制作して、展示をします。僕は、カレリアイーgerチェアというスツールをテーマにし、雪を使った自然の形で新しい家具をデザインしました。モックアップを制作するにあたり、素材の選び方や加工の方法などを学ぶことができました。特にミシンを使ったり、布にプリントする経験は初めてでコンセプトやデザインを考えるだけでなく、制作の過程も楽しむことができました。

二つ目がプロダクトデザインのアドバンスドプロジェクトは、フィンランドの家具メーカーの veke と共同して家具をデザインする授業です。グループワークで、二段ベッドをデザインし、1/1 スケールのモックアップを作り、veke に提案します。素材や、安全性についても考える必要があるため、自分の表現したいデザインと構造的な安定性のバランスがとても重要です。この授業はまだ、途中のため次の報告書で最終提案についてかきます。

フィンランドの文化を学ぶ授業の Understanding Finland は座学の授業で、インターネットでは調べられないようなフィンランドの特性を学びます。最終的には、自分の出身国とフィンランドの違い、同じ部分についてまとめ、レポートにします。授業はフィンランドを表す五つの鍵 () を基に進んでいきます。特に自分が日本との大きな違いに感じたのは平等性に関してです。フィンランドでは、子供が生まれると国からベビーボックスという箱が支給されます。箱の中には、おもちゃ、服、食べ物など、赤ちゃんの育児に必要なものが入っています。特に注目したいのが、この箱の中身は赤ちゃんが男の子であろうと、女の子であろうと変わらないことです。フィンランドでは、生まれた時から平等なのです。日本の社会でもたくさんのことが良い方向に変わりつつありますが、文化的な背景からまだまだ男性上位的な面が多々見られるように感じました。

四つ目の授業は Adaptation Charting という授業です。交換留学生向けの授業で、毎週先生がトピックを設けそれについて議論します。印象に残っているのが、つい最近のことですが、ウクライナとロシアの関係について話し合ったことです。自分は、ロシア、EU、アメリカ、中国、日本それぞれの立場からこの問題について理解できていたと感じていました。しかしながら、この授業で戦争の最前線の状況、過去のフィンランドでの戦争の歴史についての写真を見て、大きなショックを受けました。大きな視点で状況を理解していたとしても、ウクライナとロシアの最前線での悲惨な状況を自分ごととして想像することができていませんでした。特にヨーロッパの学生たちは、距離的に近いこと、EU加盟国の国民ということもあり、自分ごととして捉えて最前線での状況を深刻に捉えていました。問題が起こっている今この瞬間に様々な国から集まった学生達とお互いの意見を交換できたことは、非常に貴重な機会でした。



LIFE 生活について

短かったようで長かった留学期間が終了しました。間違いなくこれまでの人生でとても刺激的で貴重な経験になりました。

今回の報告書では、日本に帰ってからどんなことを思ったのか、これまでのまとめのような形でつらつらと書いていくことにします。

まず、自分が大きく変わった点としてラップランドでの生活や文化を通じて田舎暮らしっていいなとか、自然のありがたみ、凄みに気づくことができたことです。

僕は、生まれてから22年間、留学に行くまで東京の中心地で生きてきました。田舎暮らしの良さや、自然の美しさに全く興味がありませんでした。正確にはきっかけがなかったです。

しかしながら、ラップランドでの生活を経て身近に木々や湖、川があり、東京と比べ物にならないほど大きな空があることの素晴らしさに気づくことができました。



自分が空の写真を携帯で撮影するようになるとは思ってもみませんでした。ラップランドでは、ただの帰り道の風景に幸せを感じることができます。

文化の視点からも、自然がうまく絡み合っています。

サウナ室は木製ですし、伝統的な焚き火のサウナではストーブに水をかける（ロウリュ）ことで木の匂いを楽しみます。また、温まった体を近くの雪や川の水で冷やします。

山の近くや、川の近くには誰もが使える焚き火用テントのような建物があり、ハイキングをするときは必ずソーセージやパン、ビールを持参してバーベキューを楽しみます。

この二つのように誰かと遊ぶときは、いつも自然がついて回ります。自然が人と人を繋ぐ共通の話題になります。そして、これが日本とフィンランドの生活で大きな違いに感じました。

サウナや焚き火は、もちろん一人で楽しむことができます。（特に日本のサウナはこの印象が強いのではないのでしょうか？）

しかしながら、自分が思うフィンランドのサウナや焚き火のイメージは異なります。これらは日本人に似てシャイなフィンランド人が、社会とつながる交流の場の一つなのです。

サウナでは、同じ空間を共有する人と室温を一定に保つという共通のタスクがあり、仲間意識が生まれます。水をストーブに入れましょうか？という一言が会話のスイッチとなり、他者との交流を生みます。焚き火でも、火を知らない人と共有するから火をつけるために協力します。自然が共通言語になるのです。

サウナや焚き火のような場所があるから、孤独を感じないし、自分と向き合ったり、自分の気持ちを言葉にする機会があります。

日本では、知らない人と会話をすることがほとんどないように思います。フィンランド人と同じようにシャイな日本人だからこそ、このような場が社会に必要なだと感じました。

自然に囲まれて生活することで、自然を誰かと共有することで、自分を見つめ直すことができました。そして、自然の偉大さを改めて感じました。

もうひとつ大きな変化が、先ほどの話とつながるところもありますが自分のことを考える時間が増えるきっかけになりました。

他の交換留学生との交流や、フィンランド人との生活の中で最も衝撃を受けたのが、「日本人って事実しか話さないよね」と言われたことです。これは、自分の感情をのせて話したり、感情を表に出すことが少ないからという文脈で言われた言葉です。

他の日本人留学生も一括りにされた言葉でしたが、自分にとってとてもクリティカルで自分の考えを大きく変えるきっかけとなる言葉になりました。

そして、自分の中でこの言葉を反芻し導き出した答えが、自分自身のことをよく理解してそれを言語化し、伝える力が弱いということです。子供の頃からトレーニングするべきで、とても遅いスタートですが今の1番の関心ごとで、自分なりに取り組んでいます。

この話は、とても個人的で今後留学にチャレンジする皆さんには関係のないことかもしれませんが、自分が言いたいことは、留学中にはたくさんの刺激があり、日本では感じられないことがいっぱいです。たくさんの違いを無視しないで、受け止めることが大事だと感じます。それが、自分に足りないものに気付いたり、新しい価値観を得るきっかけになりました。是非、オープンな心でいろんなことを吸収する姿勢で、留学を楽しんでください。



STUDY 勉学について

全ての授業が終了しました。これまで紹介していない、サービスデザインの授業と交換留学の日記を表現する授業の二つを紹介して、終わりにしたいと思います。

サービスデザインの授業では、インダストリアルデザイン学部のリブランディングをテーマに学生や先生方に向けて調査やワークショップの設計を経験しました。この授業で、特に大事なキーワードになったのがアークティックデザインです。文字通り北極圏のデザインです。留学生にとってはとても魅力的に感じる言葉ですが、現地の学生たちは非常にネガティブな感情を抱いています。そもそもアークティックデザインとは何なのか？アークティックデザインを学んで、それをどう活かせるのか？といったように不満がいっぱいあるようで、先生方にとってもこの言葉の定義がそれぞれで、ラップランド大学としてどのような教育をして行くかも曖昧な印象でした。



そこで、授業では課題の整理の一環として学生たち、教員たちそれぞれが思う理想のインダストリアルデザイン学部はどんなものなのかということワークショップ形式で調査していくことにしました。初めに行ったのが学生とのワークショップです。留学生と現地の学生に集ってもらい、サウナでワークショップをしました。

理想の将来の自分について考えてもらい、そのために大学にどんなものがよいか、どんな支援が必要かということを考えてもらいました。大学についてどんなことを考えているのか、自分がどうなりたいのかという素直な気持ちがかき、参加者も開催側もどちらも有意義な時間にすることができました。ワークショップ中は、お菓子を食べながら、リラックスした雰囲気づくりをし、最後にはサウナ

に入り気持ちよくなって帰ってもらうような流れでした。学生たちの気持ちを聞いて、自分はそのまで学校について深く考えていなかったし、学生それぞれが自立し、各々の意見を持っていることに感心しました。逆に言えば、千葉大学のデザインのカリキュラムはとても完成されていて、不安を感じるものが少なかったのだなあと思いました。

次に、その成果物を教員の方々に見せ、意見をいただく場を設けていただきました。ワークショップの様子や、自分達の仮説、意見をまとめたものを発表し、相互に意見し合う場を作りました。その場で感じた大きな課題が外とのつながりが薄いことです。千葉大学のように企業で働くOBの方が授業をしてくれるシステムがないし、海外の大学とのワークショップもとても少ないです。企業とのつながりも少なく、学生はほとんど自力で仕事を探する必要があります。だからこそ、自分達のデザインや環境の良さを理解する機会が少ないのだというふうに感じます。外からの意見があって、初めて自分達の当たり前のユニークさに気付けるのです。こうした意見を外の交換留学生の視点で発言し、対話することができたのは自分にとってとても貴重な体験になりました。

もう一つの授業が、交換留学生向けに開講された Adaptation Charting です。毎週先生が用意するトピックについて話し合い、最終的には交換留学の日記を学生各々が違う形で表現し展示します。

自分が日記のテーマにしたのは、スパゲッティです。留学期間に何かひとつ料理をマスターしたいという気持ちから、留学当初より始めていたことで、スパゲッティを作ったら必ずInstagramにアップしていました。展示では、作ったスパゲッティを本にし、スパゲッティに使われた食材や使ったお皿の柄などをデータとして収集し、ビジュアライゼーションしました。

留学期間中に気づいた自分の良いところですが、自分は何事もコツコツ続けることができるのだなあと思いました。また、アートのプロジェクトになると自分を表現することになるのでそうしたことに気づくことができました。これまでデザインで提案してきたものも自分から出てきた気づきや思いを表現してきましたが、アートはよりそれが強く出ます。これまでたくさんの授業を経験して、デザインだけでなくアートの授業を履修したことで、より自分を見つめる経験ができました。

